

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分でできる(自主) みんなとできる(協働)」～主体的に学び、温かい人間関係を育む子どもの育成～

- 自ら学び、互いに高め合い、「知」を構築する力を育みます。(知)
- 礼儀や規範意識を大切に、他者を思いやる豊かな心を育みます。(徳)
- 自他の命を尊重し、心身ともに健やかな子どもを育みます。(体)
- 地域を大切に、社会の一員として協働する姿勢を育みます。(公)
- コミュニケーションを大切に、様々な変化に柔軟に対応できる力を育みます。(関)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自分づくり
コミュニケーション

具体化した資質・能力

- 多様な人・もの・こととの関わり
- 多様な活動へのチャレンジ
- 豊かな言語感覚
- 豊かな人間関係

中期取組目標

- 「あったかハート」を共通言語として全ての教育活動を展開します。
- 自分のよさに気付くとともに、自分の生き方につながるチャレンジを続けます。
- まち(社会)とのつながりや自分の将来とのつながりを考えた活動を推進します。
- 探究的な学びや体験活動等を通し、主体的・協働的な学びを推進します
- 定量的評価軸(横浜市学力・学習状況調査他)をもとにして、取組の運営改善を図ります。
(「自分づくり」「コミュニケーション」に係る評価と進捗管理)

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①児童が主体的に取り組むことの学びを創る。(日常的な情報交換、教科担任による学習研究、iPadの効果的な活用を取り入れた授業研究)【通年】 ②授業研究(国語科)を通して、自分の考えをもち、伝え合い、学びを深め合う児童の育成を図る。【年3回】講師を招いて国語科の学習について学ぶ
担当	授業改善委員会

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童の実態

横浜市学力学習調査の結果より、学力は、横浜市の平均を上回っている。先行学習により、高い知識を持っている児童が多くいるが、知識・理解・技能の習熟について力の差も見られる。

また、「授業では自分の考えを伝えたり、発表したりしている」と答えた児童は、高学年になるにつれて少なくなっている。

「48 授業では自分の考えを相手に伝えたり、発表したりしていますか。」

(2)これまでの学校の取組状況

①主体的に学ぶ児童を育てるための研修から、授業実践後の児童の姿を見とる。学びを広げ深める姿勢の獲得と自分で自分の学びを評価するサイクルの習慣化。国語科を通して「主体的に学び 温かい人間関係を育む子の育成」を目指した。授業研究会を通して、児童の語彙の少なさ、教師の学習課題のたせ方に課題が見つかった。

②主体的に学ぶ方法の一つとしてiPadの活用方法を共有し、より良い活用について蓄積する。タブレットの活用は児童間の意見を伝え合いや整理に有効な面もあった。さらに使用方法の検討が必要である。

今年度の目標

「授業で自分の考えを相手に伝えたり、発表したりする力」「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする力」を伸ばす。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期
- ・各学年の児童の様子から、部会ごとに国語科におけるテーマ(話す聞く力の育成、話し合い指導等)を設定し、継続して、重点的に指導していく。学年研究会や授業改善委員会で、各学年の取り組みを情報交換し、職員に発信し共有する。
 - ・授業研究を行い、児童が主体的に取り組んでいるか、目標が達成されているか、研究主題「自分の考えをもち、伝え合い、学びを深め合う子の育成」に迫るための手立てが適切であったか等について、検証する。
 - ・重点研の中で中高ブロックだけでなく、学年縦断グループによる国語科を中心とした情報交換の中で、iPadの活用法について情報交換を行い、より効果的な活用について研修する。
- 下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①全校で「あったかハート」を合言葉に、自分を大事に、相手を大事にする心情を育てる。月に1度「あったかハートデー」を設け、学級でYPプログラムに取り組み、社会的スキルの育成を図り、コミュニケーションの力を伸ばす。 ②児童が自分を見つめ、目標をもち、振り返りを通して「自分づくり」の力をつける。(月に1回自分づくりDAY) ③教師から進んであいさつをし、「挨拶をするとうれしい」という心情を育てる。(あいさつ週間)
担当	児童指導・道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態

友達と活動することが楽しいと感じ、周りの友達と関わりながら、自分なりに充実感をもって学校生活を送っている。話ししたり、聞いたりして、人と関わることは好きですが。

(2)これまでの学校の取組状況

児童自身が自己理解を深め、「自分づくり」を進められる道徳教育をデザインする。自分の目標をもち、自己をふり返り、次の行動を起こす子どもの育成を進める。あいさつから始まる、気持ちの良い協働力の育成を進める。道徳の授業を年間計画をもとに進めるとともに、授業の展開例を指導案を学年で作成した。年間を通して、「礼儀」「挨拶」については、継続的な指導を続けた。「自分づくり」の担当者を中心に、各学年に応じたあててたて、児童の振り返りに役立てた。カードのあり方を検討し、来年度にさらに活かす。

今年度の目標

「あったかハート」を合言葉に、人とかかわりについて考え、自分や周りの人を大事にする心情を育てる。「自分づくりシート」や「自分づくりDAY」を充実させ、自己の振り返りをもとに目標を設定することで、行動を決定できる力を育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

- ・月に1度の「あったかハートデー」でYPプログラムに取り組んだり、ロング屋休み等を利用したクラスレクを実施したりすることで、児童同士の関わりを深める時間を確保する。
- ・第4火曜日の朝、「自分づくりシート」に取り組んだり、大きな行事ごとに振り返りを行ったりして、年間を通して継続して自己の振り返りを行う。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①一校一実践として何を取り組むかを教職員全体で話し合うことにより、全教員で主体的に取り組めるようにする。【通年】 ②運動委員会を中心に、運動習慣促進につながる取組を考え、実行していく。【通年】
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態

体力テストの結果から、昨年度に比べると、記録の結果が伸びてきている。コロナ禍が、緩和されてきて体育の授業などできるようになってきた。しかし、20mシャトルランや反復横跳びの結果は、全国、横浜市の平均より下回っている。このことより、体力に課題が見られる。そのため、基本となる動きを楽しみ、走る楽しさを感じることが大切である。

(2)これまでの学校の取組状況

俊敏性を高めるために、体育の授業の最初にラダーや変則かけっこなどを行った。(一校一実践)また、運動委員会が企画し、各クラスごとに長縄に取り組む活動を行った。11月から3月まで継続して行い、運動習慣促進につながった。また、月ごとの記録をとり、伸びたクラスを放送で紹介することにより、運動に対する主体性の育成につながった。

今年度の目標

運動の楽しさに気づき積極的に活動に参加することで、運動の日常化を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 筋力と俊敏性を高める運動を行う「3分間ランニング」の実施
 - ・体育の授業開始「3分間ランニングタイム」を設ける。
 - ・トラックを走った周回数をワークシートに記録してマスをぬる。
- 上半期
- 「ロング屋休み」の実施
 - ・外遊びの時間を増やす。
- 下半期